

担当科目の魅力

私の担当する「論文の読み方・書き方」では、「論文・レポート」の書き方を学ぶことにより、「論理的に相手を説得する能力」を身につけることを目標としています。大学生に必要なスタディ・スキルの基本であり、さまざまな専門科目を学んでいくうえで、必要不可欠な能力です。

「論文の書き方」は、大学生活だけでなく、社会活動においても役立ちます。就職活動では、自分の能力や志望動機を、説得力あるかたちでアピールしなければいけません。社会人になれば、報告書・企画書を執筆したり、プレゼンテーションをさせられたりすることが多くあります。いかに相手を納得させることができるか。これが人生の運命を分けることもあります。こうした作業には、「論文の書き方」は十分に応用可能です。多少大げさな言い方をすれば、「論文の書き方」をマスターすれば、それは社会に出てから強い武器になるのです。

日本人は、論理的に説得する作業が苦手であると一般に言われています。しかし、国際化時代の現在、日本でもこうした能力はますます重要視されて行くでしょう。「論文の読み方・書き方」を履修した学生が、論理的に説得する能力を少しでも身につけられるように、お手伝いをしたいと考えています。



■論文の読み方・書き方

岩村 正史
(いわむら まさし)

新潟県出身。慶應義塾大学大学院法学研究科後期博士課程修了。博士(法学)。日本政治史専攻。著書に『戦前日本人の対ドイツ意識』(慶應義塾大学出版会)。iPodで80~90年代の音楽を聴くのが趣味。

推薦する図書

私は学生時代、ゼミの指導教員に薦められ、山本夏彦のエッセイを読みました。彼の「人間」に対する鋭い洞察力、「権威」に立ち向かう反骨の精神、失われた伝統へのこだわりなどに、すっかり魅せられてしまい、すべての著作を読破しました。彼の議論に全面的に同意したわけではありませんが、現在の私の「ものの考え方」の多くは、彼のエッセイを読みあさるなかで生まれてきたと自覚しています。

21世紀の現在においては、山本夏彦の時代批評は古くさくなっており、大学生には面白くないかもしれません。しかし今も昔も、人間の本质は変わりません。現代の若者が読んでも、きっと得るものがあるはずです。『茶の間の正義』(中公文庫)、『「夏彦の写真コラム」傑作選』(新潮文庫)、『何用あつて月世界へー山本夏彦名言集』(文春文庫)などを薦めます。